

## 使徒の働き1章8節 「上に臨まれる聖霊」

### 1A 神のしもべたちに注がれる聖霊

1B 神の選び

2B モーセのつぶやき

### 2A すべての者への注ぎ

1B 新しい契約

2B 御霊の注ぎ

3B 御霊の現れ

### 3A 上に臨む力

1B 世に働かれる御霊

2B 内に住まわれる方

3B 外に現れる御霊

### 4A 信じる者に働く力

1B 全能の力

2B 信仰の必要

## 本文

使徒の働き1章を開いてください。前回から、使徒の働きを学び始めています。前回、予告しましたように、今晚は1章8節のみに集中したいと思います。まず、お読みします。「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

どうして、ここの箇所をじっくり見ていく必要があるのか？と言いますと、その理由の一つが、「使徒の働き」とは、要は、このイエスのお約束がどのように実現していくのか？を証言しているからです。聖霊が、エルサレムに留まっている弟子たちに臨まれます。彼らは、イエスを力強く証します。そして、ついに迫害が起こります。ステパノがサンヘドリンで弁明したら、彼は石打にされました。それから、エルサレムにいる人々が散っていきます。散っていった人々は、ユダヤとサマリアで福音を語ります。ピリポが、サマリアで福音を力強く語り、大勢が主を信じました。それが8章です。それから、一部は北上して、シリアのほうに行きます。そこで、異邦人にも語り始めたら、主を信じ始めました。それで、シリアのアンティオキアで教会が生まれます。11章に書いてあります。そして、パウロとバルナバが、この教会から遣わされて、宣教を始めます。それが13章です。

最後に、パウロが囚人のままで、ローマに到着します。使徒の働きの最後は、こう書かれています。「28:30-31 パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、

31 少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。」このようにして、地の果てにまで、イエスの証しをしました。実に、イエスがここで、聖霊の力によって、地の果てにまでご自身の証人となると言われたとおりです。

## 1A 神のしもべたちに注がれる聖霊

### 1B 神の選び

聖霊が上から臨まれる出来事は、使徒の働き 2 章で読むことができます。弟子たちに聖霊が臨まれ、外国の言葉で神を賛美した後に、ペテロがそこに居合わせたユダヤ人たちに力強く、イエスを証しました。それで彼らの心が刺されて、どうすればよいですか？と尋ねました。ペテロが、答えました。「2:38-39 それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。39 この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」悔い改めて、主の御名によってバプテスマを受けなさいと言っています。そして罪の赦しを受けます。これは、悔い改めて主を信じる者がだれでも、与えられる約束ですね。けれども、聖霊のバプテスマについての約束が、すべての人のために、与えられていると言っているところが、特徴的です。聞いている彼らだけでなく、彼らの子どもたちも。そして、遠くにいる人々にも、です。召された人にはだれにも、与えられます。

これは、父の約束が与えられたヨエルの預言に、はっきりと書かれていることでした。「2:17 神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。」すべての人に、主はご自分の霊を注がれます。だから、息子も娘も、預言を語ります。青年も老人も同じです。幻を見て、夢を見ます。

この約束が与えられる前は、主は、ご自分の選ばれた、しもべたちのみに与えられていました。預言者たち、王たち、そして祭司などです。モーセ、ダビデなどももちろんのこと、士師も主の御霊に満たされて、力ある働きをしています。サムソンは、女によってその力を失いましたが、それまでは主の霊が臨み、ペリシテ人をことごとく倒しました。けれども、限られた人々だけでありました。例外的に、アモスがいます。彼はユダに住む羊飼いでした。けれども、北イスラエルに行き、預言しました。「7:14-15 私は預言者ではなかったし、預言者の仲間でもなかった。私は牧者であり、いちじく桑の木を栽培していた。15 しかし、【主】が、群れの世話をしていたところから私を取り、【主】が私にこう言われた。『行って、わたしの民イスラエルに預言せよ』と。」預言者でない者が預言をすることは、珍しかったのです。

### 2B モーセのつぶやき

そんな中、とても興味深い話があります。モーセが、荒野の旅を率いている中で、民が不平を鳴らしました。それで疲れてしまったのでしょうか、「私一人で、この民全体を負うことばできません。私

には重すぎます。」と、嘆きました。その後で、主が長老たち七十人を集めなさいと命じられます。その七十人に、モーセの上にある霊から一部を取って、彼らの上に置くと言われます。それで、長老たちは集まりましたが、彼らは預言をしました。ところが、二人が宿営に残っていて、そこで例がとどまり、その中で預言をしました。

ヨシュアがそれを知り、「わが主、モーセよ。彼らをやめさせてください。」と言います。モーセは言いました。「民 11:29 あなたは私のためを思って、ねたみを起こしているのか。【主】の民がみな、預言者となり、【主】が彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに。」このように、すべての人が主の御霊が与えられれば良いのに、といったのです。一部の人、主のしもべに対して、主がご自分の霊を注がれていたのですが、今はすべての人に注ぐと言われる。これが、イエスがここで約束されたことの大きな特徴です。

みなさんが、もしや、聖霊のバプテスマ、あるいは、御霊の油注ぎは、教会の牧師とか、限られた人々に与えられるもので、一般の信徒、平信徒(?)と呼ばれる人々には関係のないことだとしたら、それは大間違いです。そうではなく、召された者すべてに与えられた約束です。

## **2A すべての者への注ぎ**

### **1B 新しい契約**

主は、ご自分の民との契約を更新される約束を与えておられました。預言者エレミヤを通して、です。「エレ 31:33-34 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——【主】のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。34 彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『【主】を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ——【主】のことば——。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」主の律法が、私たちの心に書き記されます。そして、主をそれぞれが知ります。互いに知りなさい、と言わなくてよいのです。そして、不義が赦されます。

ここで大事なのは、すべて主ご自身の一方的な働きかけだということです。彼らが、石の板に書き記されたおきてを守らず、契約に違反しました。けれども、今度は主は、ご自身が、彼らの状況に関わらず、恵みによって一方的に行ってくださいなのです。

### **2B 御霊の注ぎ**

そして、この新しい契約を有効にするのは、神ご自身の霊の働きです。エゼキエルが、エレミヤに預言が与えられて、間もない時に、主から与えられました。「36:26-27 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩

み、わたしの定めを守り行うようにする。」主の掟に従わなくさせているのは、その石のような心です。罪のゆえに心が頑なにされています。しかし、聖霊の働きで、主の御声に聞き従うことのできる、感覚を持っている肉のような柔らかい心に変えられるのです。

### 3B 御霊の現れ

このようにして、主は、私たちの義の行いではなく、一方的な憐れみで御霊を注がれ、そして御霊の現れがあります。御霊の現れとは、賜物を与え、それぞれが主に仕えることです。コリント第一 12 章に、そのことをパウロが書いています。「12:4-7 さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です。5 奉仕はいろいろありますが、仕える相手は同じ主です。6 働きはいろいろありますが、同じ神がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。7 皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。」一人一人に、御霊の現れが与えられます。

多くの人が間違っているのは、「教会の働きは、牧師のすること。そして、私たちは牧師に従い、牧師の言われることをやっていたらいい。」あるいは、「牧師が教会のことをするんだから、私はただ、聖書を学んで満足していればよい。」というものです。その聖書には、ひとりひとりに御霊の現れが与えられていて、与えられた賜物によって主に仕えることが書かれているのです。牧者は、むしろ、ひとりひとりに御霊の賜物が与えられているのを励まし、それを用いるように奨励し、整えることが務めなのです。エペソ 4 章には、「4:11-12 キリストご自身が…ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。」とあります。

### 3A 上に臨む力

御霊がすべての人々に注がれて、それで、主にお仕えする恵みにあずかります。そこで次に、「聖霊があなたがたの上に臨むとき」と、主が言われた言葉に注目します。

### 1B 世に働かれる御霊

主の御霊の働きは、すでに世において、言い換えれば不信者の間でも働かれています。それは、誤りを認めさせる働きです。「ヨハ 16:8-11 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。10 義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。11 さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。」

罪については、イエスを信じないことだと言っています。私たちは、何か悪いことをしたら罪だと言われますが、主はここで、ご自身を信じない、信用しないことが罪だと言われます。次に義についてですが、イエスが父のもとに行くことだと言われます。これは、父が受け入れられる義は、キリストの義であるということです。神の義に達しているのは、キリストの義だけだということを、御霊が

誤りを示すのです。それから、さばきについては、この世の支配者が裁かれたとありますが、これは、キリストが死なれて、よみがえられた時に成し遂げられました。

したがって、御霊は、キリストが死なれて、よみがえられ、天に昇られたことについて、一人一人に証して、この方が必要なのだ、この方を信じないといけないと教えるのです。

## 2B 内に住まわれる方

そして、主は御霊によって、私たちの心と思いを新しくします。私たちを、御霊によって新しく生まれさせます。「ロマ 8:14-16 神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証してくださいませ。」御霊によって、自分が神の子どもであることの確信を与えられます。この方が、自分自身の父、お父さんになってくださったことを知ります。それは、御霊が、自分の内に住んでくださるからです。

そして、御霊に導かれることによって、私たちの肉ではできなかったことをすることができます。罪を殺すことです。「ロマ 8:9-10 しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちにではなく、御霊のうちにいます。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。10 キリストがあなたがたのうちに住んでおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、御霊が義のゆえにいのちとなっています。」このようにして、私たちの内におられる御霊が、新たな歩みをするように助けてくださいます。

## 3B 外に現れる御霊

多くの人、キリスト者は、ここまでのことはよく知っています。けれども、聖霊にはさらに、あふれ出るお働きをされます。まだ信じていない時に、自分に、十字架につけられたキリストを示してくださったという働きがあります。そして、主が内におられて、自分をご自分の似姿へと変えてくださる働きがあります。しかし、主は、それだけのために御霊を注がれるものではありません。ご自分が、私たちの内におられるだけでなく、私たちからあふれ流れて、外側に働きかける働きをされます。そして、それが「わたしの証人となる」という約束です。内に確信を与え、罪に対する力を与えるだけでなく、自分を通して、周囲の人々が、確かにイエスが生きて働いておられると知る働きです。

主が、もっとも分かり易く表現された、聖霊のお働きは、生ける水でありました。仮庵の祭りが満ちた時、終わりの日ですが、立ち上がって大声で言われました。「ヨハ 7:37b-38 だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」生ける水の川が流れ出るようになる、とされています。「心の奥底」と言われていますが、直訳は「腹から」です。人の感じる部分

は、日本語でちょうど「腹黒い」という言葉があるように、心臓よりも腹であると当時の人たちは考えていました。

そして、この「流れ出る」という言葉は、「ほとばしり出る」というような意味合いです。聖書の言っているとおりにとイエスは言われていますが、それはイザヤの預言です。「44:3 わたしは潤いのない地に水を注ぎ、乾いたところに豊かな流れを注ぎ、わたしの霊をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ。」乾いたところに水が注がれるように、御霊が注がれるということです。これは、イスラエルの人々にはありふれた光景です。イスラエルには、たくさんワジと呼ばれる涸れ川があります。雨季と乾季に分かれるイスラエルの気候において、乾季には川が干上がって、ただ水の流れた跡だけが残っている涸れ川があります。特に、南部の沙漠においては顕著です。しかし、そんな涸れ川も、荒野において年にわずかに降る雨があります。その時は、ちろちろと流れるではありません。乾いているところを、一気に鉄砲水であふれ流れてくるのです。そうした動画は、例えばエンゲイに流れてくる鉄砲水など、たくさんユーチューブでアップされています。

イエスは、このことを語られています。私たちのうちにおられる聖霊が、私たちのうちだけでは収まりません。この方は、あふれ出て、私たちの周りに、これまでからからに乾いていたところに、一気に霊的な潤いをもたらすように、働かれるのです。

ここで注意したいのは、私たちの内側で、高揚して、それで聖霊が爆発的にあふれ出るということではないことです。もしかしたら、全く感じないこともあります。むしろ、それが大きいのではないのでしょうか？自分が、主の働きをする時に、その瞬間に与えられるので、自分というよりも、主が行ってくださっていることが分かります。また、自分が用いられている時さえ、気づかないことがあります。この働きは、あくまでも自分ではありません。自分を通して、自分の周りに主ご自身が、生きておられることを証しされるのです。そこで、大事なことは聖霊の導きに従うことです。

#### 4A 信じる者に働く力

##### 1B 全能の力

そして、聖霊が上に臨まれると、「あなたがたは力を受けます」と主は言われます。ギリシア語でデュナミスです。英語のダイナマイトの元々の言葉です。イエス様が、ヤイロの娘を助けに行こうとされた時に、群衆が押し寄せてきていて、その中に長血を患う女がやってきて、イエス様の衣に触れました。それで血の源がすぐに乾いて、病気が癒されましたが、「マルコ 5:30 イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき」とあります。この力も、デュナミスです。イエスにある力が、この力であります。

使徒たちは、自分たちの言葉だけではない、宣教は、力と御霊によるのだと説明しています。使徒パウロは、こう言いました。「 I コリ 2:4 そして、私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵の

ことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。」ローマ人への手紙では、こう言っています。「15:18-19 私は、異邦人を従順にするため、キリストが私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かをあえて話そうとは思いません。キリストは、ことばと行いにより、また、しるしと不思議を行うかと、神の御霊の力によって、それらを成し遂げてくださいました。こうして、私はエルサレムから始めて、イルリコに至るまでを巡り、キリストの福音をくまなく伝えました。」神の御霊のデウナミスによって、これらのことを行うのです。

## 2B 信仰の必要

以上を見てきて、何を皆さんは感じましたでしょうか？どんなメッセージを主から受け取りましたでしょうか？自分がことさらに清くなって、霊的なエリート集団に入り、神に選ばれて、それで聖霊の力が与えられるということでしょうか？いいえ、その正反対ですね。自分が、神の恵みによって救われて、神の憐れみを受けて御霊の賜物が与えられました。そして、その満たしは、信仰によって受け止めるものです。「エペ 1:19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。」

先に、長血を患う女に、イエスの力、デウナミスが出て行ったことを話しました。その力が流れた時に、彼女は何を行ったでしょうか？信じたことです。必死に信じた。「マルコ 5:28 あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と信じた。そして、イエスはその女の信仰をほめました。「5:34 娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」信じたのです。ただ消極的に信じたのではなく、貪欲に、食い入るように信じた。信仰を働かせるのです。信仰を働かせる時には、女のように行動が生まれます。ヤコブが手紙で、「2:31 信仰がその行いとともに働き、信仰は行いによって完成されました。」と教えたとおりです。自分はめちやくちゃであっても、その信仰によって、イエスの力が働きました。

それが、聖霊によるバプテスマです。求める者に、聖霊が与えられるというイエスの約束を読みましょう。「ルカ 11:13 ですから、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています。それならなおのこと、天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます。」